



「新型コロナワクチン接種について」

新型コロナウイルスに対するワクチンの接種が行われています。新しいワクチンのため、その安全性について不安に思われている方が多いかもしれません。

その中でもワクチン接種後に現れる副反応の種類や対応の仕方をまとめてみましたので、参考にしてみてください。

副反応の内容

①接種部位の痛み・腫れ・かゆみ、疲労、頭痛、筋肉痛、悪寒、関節痛、四肢痛、下痢、発熱、倦怠感、無力症、吐き気・嘔吐、リンパ節症、発赤・紅斑、など

ワクチン接種から数日以内に現れる症状です。そのほとんどが数日以内に回復するようです。発症の頻度や症状の強さには個人差やワクチンの違いなど様々で、全く症状が出ないこともあるようですが、厚生労働省の資料によると 50%以上の確率で何らかの症状が現れているとされています。またワクチンの種類による違いもあるようですが 1 回目の接種よりも 2 回目の接種のほうが発症しやすく症状が強いと言われています。

②血管迷走神経反射

接種に伴う緊張や痛みなどのストレスがもとで、立ち眩みや失神などの症状が出ることがあります。ワクチンの成分が直接影響しているわけではなく誰にでも起こる可能性があります。横になって休むことによって自然回復します。

③アナフィラキシー

接種後、すぐに起こるアレルギー反応のことです。じんましんや呼吸困難・血圧低下などの症状が出ることがありますが、発生することはごく稀なことのようです。

④心筋炎・心膜炎・血栓症

胸の痛みや息切れ、頭痛、しびれやけいれんなどの症状が現れます。ワクチンの種類や年齢・性別の違いなどで変わりますが、発症する頻度は極めて稀です。症状の強さは様々ですが、症状が現れた場合はすぐに医療機関を受診することが勧められています。

副反応への対応

①リラックスして接種に臨む

まずはワクチン接種の説明書をよく読み、内容をよく理解しましょう。わからないことがあれば接種前に質問をして、納得できなければ接種を控えることも選択できます。

②ワクチン接種後 15 分以上様子を見る

ワクチン接種後は接種会場で椅子に座って 15 分以上様子を見ましょう。血管迷走神経反

射が起こると転倒してけがをする恐れがありますので、必ず背もたれのある椅子に座るようにしましょう。特に不安な方は30分以上様子を見ると良いでしょう。接種を行う医療機関や会場にはすぐに対応ができるように医薬品などの準備がされていますので、もしも体調に異常が感じられたら医師・看護師・担当者に申し出ましょう。

③帰宅後異常が見られたらすぐに相談する

帰宅後に体に異常が見られた場合は、接種した医療機関やかかりつけ医、または各自治体の窓口にご相談しましょう。受付時間や電話番号は各自治体により異なるため、接種前に調べておくと安心です。

④解熱鎮痛剤の使用について

発熱時の対応として市販の解熱鎮痛剤を使用することは差し支えないとされています。ただし、妊娠中・授乳中・高齢者・病気治療中・他の薬を内服中などの方はかかりつけ医や薬剤師にご相談ください。ワクチン接種後に発熱がないにもかかわらず予防的に解熱鎮痛剤を服用することは推奨されていません。

⑤予防接種健康被害救済制度

一般的にはワクチン接種を原因とする健康被害は完全にはゼロにはできないとされています。健康被害が起きる可能性は極めて稀ですが、そのための健康被害救済制度というものが設けられています。制度の具体的な内容は厚生労働省のホームページまたは各自治体にお問い合わせください。

ワクチン接種後の感染防止対策

ワクチンを接種することにより、新型コロナウイルス感染症の発症と重症化を防ぐことが期待されますが、どの程度その効果があるかはまだ十分にわかってはいません。また、全ての方がワクチン接種をされているわけではない状況ですので、ワクチン接種をされた方とされていない方が共に生活する環境が続いていきます。そのため、ワクチン接種後もこれまでと同様の感染防止対策（マスクの着用、手洗い・消毒、3密の回避など）を心がけてください。

大切なのは情報の見極め

あらゆるメディアで新型コロナウイルスや、ワクチンに関する情報が報道されており、私たちが情報を目にする機会も、情報量自体も増えています。良い情報だけでなく、悪い情報も伝わりやすくなっているため、情報に振り回されず、正しい情報を見極め、理解し、判断するということが重要です。不安に思うことがあれば、自分の健康を良く知るかかりつけ医に相談し、ワクチンを接種するメリットとリスクを把握しておきましょう。

また、ワクチン接種は個人の判断に委ねられます。ワクチン接種に関して自分と反対の判断をした人に対して、お互いの考えを理解し、誹謗中傷や差別などは行わないようにしましょう。